

青森県立高等学校将来構想検討会議（第3回）資料

# 学校視察報告

〔県内・県外〕

〔青森県立高等学校将来構想検討会議第1分科会（第5回）配布資料〕

平成27年2月17日

# 目 次

<b>1</b>	<b>学校視察の概要</b>	
	(1) 県内学校視察の概要	1
	(2) 県外学校視察の概要	1
<b>2</b>	<b>県内学校視察について</b>	
	(1) 東青地区学校視察	2
	青森東高等学校	
	青森工業高等学校	
	青森東高等学校平内校舎	
	(2) 西北地区学校視察	5
	五所川原農林高等学校	
	五所川原高等学校	
	板柳高等学校	
	(3) 中南地区学校視察	8
	弘前実業高等学校	
	尾上総合高等学校	
	黒石高等学校	
	(4) 上北地区学校視察	11
	百石高等学校	
	三本木高等学校・附属中学校	
	七戸高等学校	
	(5) 下北地区学校視察	14
	田名部高等学校	
	大湊高等学校川内校舎	
	(6) 三八地区学校視察	16
	八戸水産高等学校	
	八戸商業高等学校	
	田子高等学校	
<b>3</b>	<b>県外学校視察について</b>	19
	宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校	
	宮崎県立日南振徳高等学校	

# 1 学校視察の概要

## (1) 県内学校視察の概要

《目的》

県立高等学校の現状を把握し、理解を深めることにより、青森県立高等学校将来構想検討会議での議論の参考とする。

視察校は、地域バランス、課程、学校規模、学科の種別、多様な制度の導入等を考慮して選定した。

	学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
東 青 地 区	青森東高等学校	全日制	7学級	普通科	全日制普通科単位制の導入校、校舎制導入校の本校
	青森工業高等学校	全日制	7学級	機械科、電子機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、都市環境科	
		定時制	1学級	工業技術科	
	青森東高等学校 平内校舎	全日制	1学級	普通科	校舎制の導入校
西 北 地 区	五所川原農林高等学校	全日制	5学級	生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科、生活科学科	寄宿舎の設置
	五所川原高等学校	全日制	5学級	普通科、理数科	くくり募集の導入校
		定時制	1学級	普通科	
	板柳高等学校	全日制	2学級	普通科	
中 南 地 区	弘前実業高等学校	全日制	7学級	農業経営科、商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科	総合選択制の導入校
	尾上総合高等学校	定時制	I～III部 各1学級	1・2年：総合学科 3年：普通科	定時制3部制の導入校
		通信制	—	普通科	
	黒石高等学校	全日制	4学級 (40人)	普通科、看護科 専攻科(看護科)	
定時制		平成25年度 募集停止	普通科		
上 北 地 区	百石高等学校	全日制	4学級	普通科、食物調理科	
	三本木高等学校 ・附属中学校	全日制	6学級	普通科	併設型中高一貫教育校、スーパーサイエンスハイスクール
	七戸高等学校	全日制	4学級	総合学科	
下 北 地 区	田名部高等学校	全日制	5学級	普通科、英語科	校舎制導入校の本校
		定時制	1学級	普通科	
	大湊高等学校 川内校舎	全日制	1学級	普通科	校舎制の導入校
三 八 地 区	八戸水産高等学校	全日制	4学級 (20人)	海洋生産科、水産食品科、水産工学科、情報通信科 専攻科(漁業科、機関科)	寄宿舎の設置
		全日制	4学級	商業科、国際経済科、情報処理科	
	田子高等学校	全日制	2学級	普通科	連携型中高一貫教育校

## (2) 県外学校視察の概要

《目的》

他県において特色ある教育活動を行っている高等学校の情報を収集し、青森県立高等学校将来構想検討会議での議論の参考とする。

視察校は、大学進学の実績を上げている併設型中高一貫教育校と、異なる学科の高等学校（農業高校、工業高校、商業高校）を統合した専門高校という観点から選定した。

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
宮崎県立宮崎西高等学校 ・附属中学校	全日制	10学級	普通科、理数科	併設型中高一貫教育校
宮崎県立 日南振徳高等学校	全日制	6学級	地域農業科、機械科、電気科、商業科、経営情報科、福祉科	総合制専門高校

## 2 県内学校視察について

### (1) 東青地区学校視察

- 1 視察月日 平成26年8月29日(金)
- 2 参加委員 17人 検討会議委員(11人)、分科会専門委員(4人)  
地区部会委員(2人)
- 3 視察校

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
青森東高等学校	全日制	7学級	普通科	全日制普通科単位制の導入校、校舎制導入校の本校
青森工業高等学校	全日制	7学級	機械科、電子機械科、電気科、 電子科、情報技術科、建築科、 都市環境科	
	定時制	1学級	工業技術科	
青森東高等学校 平内校舎	全日制	1学級	普通科	校舎制の導入校

### 青森東高等学校

■課程・学科等：全日制・普通科【全日制普通科単位制の導入校】【校舎制導入校の本校】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	135	116	123	374
女子	145	164	157	466
計	280	280	280	840

（平成26年度の募集定員 280人）

■学校の特色等

- ・「自主・自律の精神を涵養し、創造的な思考力を持った人間を育成する」ことなどを教育目標に掲げ、健全な心身の発達を図り、豊かな個性を伸ばし、国家・社会・郷土の進展に寄与する人間を育成している。
- ・平成16年度から単位制を導入し、学校の独自性として学校設定科目を20科目程度開設している。多様な科目を開設することで、生徒の能力・適性、興味・関心、進路志望に応じた幅の広い学習を通じて進路希望の達成が可能となっている。
- ・難関大学や医学部医学科等を受験する生徒への対応としての科目開設も考えられるが、教員数の確保、教室の確保等の点で課題もある。
- ・平成25年度の大学等進学率は88.2%であり、県内でも有数の高い進学率を誇っている。

授業視察



学習施設視察  
(自習交流室)



# 青森工業高等学校

- 課程・学科等： 全日制・機械科、電子機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、都市環境科  
定時制・工業技術科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	221	214	225	660
女子	25	26	16	67
計	246	240	241	727

（平成26年度の募集定員 245人：各学科35人）

定時制	1年	2年	3年	4年	計
男子	12	11	7	5	35
女子	0	0	2	1	3
計	12	11	9	6	38

（平成26年度の募集定員 40人）

■学校の特色等

- ・「勤労を尊び、自然を愛し、自主的・積極的で、心身ともに健全な工業技術者を育成する」などを教育目標に掲げ、専門高校として、地域社会及び企業・大学の信頼を得られる学校を目指している。
- ・「ものづくり教育の推進」として、全日制では、高校生ものづくりコンテストやロボット競技大会にチャレンジさせたり、課題研究発表会を実施している。また、工業クラブのねぶた部が毎年担ぎねぶたを制作し、学校行事として、全校生徒がねぶた祭に参加している。定時制では、地域の熟練工による技術講習会や企業見学会を実施している。
- ・「キャリア教育の推進」として、インターンシップを実施したり、社会人講話を行っている。また、資格取得や各種検定試験に向けた取組が、生徒の進路達成に結びつくとともに、学習意欲を高める効果があることから、資格取得等を奨励している。
- ・部活動のうち、運動部では、平成26年度の青森県高等学校総合体育大会でヨット部、ボクシング部が優勝した。また、文化部では、放送部がNHK杯全国高校放送コンテスト創作テレビドラマ部門で優勝した。

## 実習視察

（機械実習室）



（溶接実習室）



## 青森東高等学校平内校舎

■課程・学科等：全日制・普通科 【校舎制の導入校】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	19	15	17	51
女子	9	11	16	36
計	28	26	33	87

（平成26年度の募集定員 40人）

### ■学校の特色等

- ・「自他を敬愛し、協調性に富み、責任を重んじ、規律正しい人間を育成する」などを教育目標に掲げ、生徒一人一人に目を向け、生徒一人一人の良さを3年間で引き出すことを目指している。
- ・平成26年度の甲子園予選大会に松風塾高校と連合チームを組んで出場した。部員数の減少により単独校での大会参加が難しくなっている中、近隣の高校同士の連携により生徒の活躍の場が得られたことは、小規模校における部活動の取組のモデルとなるものである。
- ・現在、本校と合同で行っている学校行事としては芸術鑑賞教室がある。他の行事は別々に行っている。
- ・近年、平内町内の生徒割合が少なくなっており、平成26年度は、1・2年生の平内町の生徒が学年の2割程度（5人）で、他はほとんど青森市の生徒となっている。

### 授業視察



## (2) 西北地区学校視察

- 1 視察月日 平成26年10月7日(火)
- 2 参加委員 14人 検討会議委員(5人)、分科会専門委員(5人)  
地区部会委員(4人)
- 3 視察校

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
五所川原農林高等学校	全日制	5学級	生物生産科、森林科学科、 環境土木科、食品科学科、 生活科学科	寄宿舎の設置
五所川原高等学校	全日制	5学級	普通科、理数科	くくり募集の導入校
	定時制	1学級	普通科	
板柳高等学校	全日制	2学級	普通科	

### 五所川原農林高等学校

■課程・学科等：全日制・生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科、生活科学科  
【寄宿舎の設置校】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	95	81	91	267
女子	75	75	75	225
計	170	156	166	492

（平成26年度の募集定員 175人：各学科35人）

■学校の特色等

- ・「地域を愛し、強い意志をもった人間形成を図り、地域に根ざした豊かな学校を構築すること」を教育目標として、生きる力を育み、将来幅広い産業に対応できるよう、技術教育としての農業教育を実践している。
- ・農業経営者に必要な能力は、①生産過程の管理 ②経営資金管理 ③財務管理 ④資産管理の4つである。この4つを高等学校3年間で教えるのは難しいため、高等学校では農業を好きになってもらうことを念頭に置き、主として生産過程の管理を教えている。
- ・建物が20ヘクタール、農地が32ヘクタール、計52ヘクタールと広大な敷地面積であり、教育環境の維持・管理が課題の一つとなっている。
- ・毎週木曜日の1時間目に「学び直し」の時間を設けることで、1・2年生は基礎・基本の徹底、3年生は応用力の育成に努めている。このような指導もあり、平成24年度及び25年度は、進学率・就職率ともに100%を達成している。

#### 農場視察

(水田)



(リンゴ園)



# 五所川原高等学校

■課程・学科等： 全日制・普通科、理数科 【くくり募集の導入校】  
定時制・普通科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	88	90	111	289
女子	113	140	125	378
計	201	230	236	667

（平成26年度の募集定員 200人（くくり募集）：普通科160人 理数科40人）

定時制	1年	2年	3年	計
男子	2	6	5	13
女子	4	5	7	16
計	6	11	12	29

（平成26年度の募集定員 40人）

## ■学校の特色等

- ・「敬愛・叡知・進取」の校訓とともに、「力行天下第一（りっこうてんかだいいち）」という学校標語を掲げ、西北地区の中核校として、弁護士、医師など政治、経済、文化、医療のリーダーとなる人財の育成を目指している。
- ・理数科では、科学的に探究する態度と創造力、基本的な実験操作法、プレゼンテーション能力等を身に付けるため、毎年2年生を対象に課題研究を実施しており、理数科独自の行事としては、大学の教員による講演や、3泊4日で筑波宇宙センターや国立科学博物館を見学するサイエンス・リサーチ・プロジェクトがある。
- ・生徒は、西北地区にあるすべての中学校（19校）から進学してきている。遠方からの通学生の中には、深浦町から列車で片道約2時間かけて通学している生徒や、中泊町の小泊地区や五所川原市の市浦地区からスクールバスで片道約1時間30分かけて通学している生徒もいる。
- ・平成26年度から導入した普通科と理数科のくくり募集によって、理数系科目に適性があり、興味・関心の高まった生徒で理数科を編成することが可能となった。

授業視察



学校概要等の説明



# 板柳高等学校

■課程・学科等：全日制・普通科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	22	44	58	124
女子	48	55	46	149
計	70	99	104	273

（平成26年度の募集定員 70人）

■学校の特色等

- ・「知・徳・体の調和のとれた健全で豊かな人間性を養うとともに、郷土の自然や文化を慈しみ、新しい時代の進展に貢献する創造力・実践力に富む人材の育成に努める。」を教育目標に掲げ、高校入学後に能力・可能性を伸ばせるよう、英語・数学の習熟度別学習やチームティーチングなど少人数での指導体制をとり、基礎・基本の徹底を図りながら、柔軟で系統性のある学習活動を展開している。
- ・校種間連携によるキャリア教育への積極的な取組や豊かな感性と考える力を育むための朝読書を実施するとともに、体験型・課題探究型の学習（全校生徒が加入している「家庭クラブ」におけるボランティア活動や地域の行事への参加など）にも力を入れている。
- ・平成26年度の生徒募集人員の減に伴う教員数の減により、教員は校務分掌や部活動顧問を兼任している。生徒数の減少により、休部や他校との連合チームで大会に参加する部が出てきている中、弓道部の男子個人全国大会出場や女子個人国体候補選手への選抜、放送部の3年連続東北大会出場など、健闘している部もある。
- ・A類型（就職）とB類型（進学）の2種類の類型を設定し、就職から国公立大学まで幅広い進路に対応できるようにしている。例年、就職が60%、進学が40%で、ここ数年は毎年のように国公立大学への合格者を出している。平成25年度の進路達成は100%であった。

授業視察



学校概要等の説明



### (3) 中南地区学校視察

- 1 視察月日 平成26年12月8日(月)
- 2 参加委員 9人 検討会議委員(5人)、分科会専門委員(1人)  
地区部会委員(3人)
- 3 視察校

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
弘前実業 高等学校	全日制	7学級	農業経営科、商業科、情報処理科、 家庭科学科、服飾デザイン科、 スポーツ科学科	総合選択制の導入校
尾上総合 高等学校	定時制	I～III部各1学級	1・2年：総合学科 3年：普通科	定時制3部制の 導入校
	通信制	—	普通科	
黒石高等学校	全日制	4学級	普通科、看護科	
		(40人)	専攻科(看護科)	
	定時制	平成25年度 募集停止	普通科	

#### 弘前実業高等学校

■課程・学科等：全日制・農業経営科、商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、  
スポーツ科学科 【総合選択制の導入校】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	92	125	122	339
女子	188	192	197	577
計	280	317	319	916

(平成26年度の募集定員 280人：商業科80人 他の学科各40人)

#### ■学校の特徴等

- ・心身ともに健全で、生徒一人一人が自己に適した「一能一芸」を伸ばし、部活動や資格取得に励み、生涯を通じて「生命(いのち)と価値(ねうち)」を探求する人間の育成を目指すことを教育目標に掲げて教育活動を実践している。
- ・総合選択制による他学科の授業の選択状況としては、商業科の生徒が家庭科の授業である保育・福祉を学んだり、農業経営科の生徒が農業経営の観点から商業に関することを学ぶなどしており、将来の進路選択に役立っている。
- ・平成26年度の男女比は、男子が37%、女子が63%となっており、女子の割合が高い。通学方法としては、半数以上が自転車通学である。
- ・進路状況は、概ね大学・短大進学が1/3、専修学校等進学が1/3、就職が1/3である。家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科では進学者が7割程度となっており、商業科、情報処理科、農業経営科では就職者が5～7割程度となっている。

#### 実習施設等視察

(トレーニング場)



(コモンスペース)



## 尾上総合高等学校

■課程・学科等：定時制・総合学科（1年、2年）、普通科（3年）【定時制3部制の導入校】  
通信制・普通科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

定時制	1年			2年			3年	計
	I部	II部	III部	I部	II部	III部		
男子	18	18	4	16	14	4	15	89
女子	22	21	8	18	15	2	17	103
計	40	39	12	34	29	6	32	192

（平成26年度の募集定員 120人：I部、II部、III部 各40人）

通信制	1年	2年	3年	計
男子	7	10	20	37
女子	14	19	21	54
計	21	29	41	91

（平成26年度の募集定員 150人）

### ■学校の特色等

- ・「心身共に健康で、調和の精神に富み『生き抜く力』を備えた人間の育成を図る」ことを教育目標に掲げ、教育活動を実践している。
- ・定時制は、多くの選択科目が開講されている総合学科であることから、生徒は自主的に本人の学びたい科目を選ぶことができ、意欲的に学習に取り組んでいる。
- ・定時制の生徒のうち、中学校卒業後、数年経てから入学してくる生徒（過年度生）は年々増えている。平成26年度は、3年次生は0人、2年次生は4人、1年次生は13人という状況である。また、4年間での卒業希望者は、2年次生では1人、1年次生では10人程度であり、生徒の多くは3年間での卒業を希望している。
- ・平成26年度の生徒の出身中学校は、黒石市内が38%、弘前市内が27%、平川市内が23%となっている。最も遠方では、五所川原市から通学している生徒もいる。
- ・通信制は91人が在籍している。以前は、様々な年齢層の生徒が在籍していたが、平成26年度の入学生は16～18歳が大半を占める。全生徒のうち年齢が一番高い生徒は30歳代である。

### 実習施設等視察

（コンピュータ実習室）



（コモンスペース）



# 黒石高等学校

- 課程・学科等： 全日制・普通科、看護科  
 専攻科・看護科  
 定時制・普通科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	54	62	71	187
女子	106	137	118	361
計	160	199	189	548

（平成26年度の募集定員 160人：普通科120人 看護科40人）

専攻科	1年	2年	計
男子	4	0	4
女子	35	39	74
計	39	39	78

（平成26年度の募集定員 40人）

定時制	1年	2年	3年	4年	計
男子	—	—	16	4	20
女子	—	—	7	1	8
計	—	—	23	5	28

（平成25年度募集停止）

■学校の特色等

- 平成26年度の学校目標として「協調学習の授業の充実により、生きる力を育む」、「郷土に対する誇りや豊かな心を育む」、「ボランティア活動への積極的な参加」などを掲げて教育活動を実践している。なお、ボランティア活動については、学校設定科目として「ボランティア探究」がある。
- 平成25年度の普通科卒業生は、国公立大学に現役で18人が合格した。また、就職希望者は全員決定した。
- 看護科では、専攻科1年生を対象とした研修旅行を行っており、東京大学附属病院等で県内の病院にはない設備を見学したり、接遇を学習したりして、生徒は良い刺激を受けている。
- 看護科の生徒は、ほぼ全員が専攻科に進学する。専攻科看護科の看護師国家試験の合格率は例年全国平均を上回っており、平成26年2月に実施された試験の合格率は97.0%であった。（全国平均89.8%）

実習視察（看護科）



授業視察（普通科）



## (4) 上北地区学校視察

- 1 視察月日 平成26年9月3日(水)
- 2 参加委員 19人 検討会議委員(8人)、分科会専門委員(7人)  
地区部会委員(4人)
- 3 視察校

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
百石高等学校	全日制	4学級	普通科、食物調理科	
三本木高等学校 ・附属中学校	全日制	6学級	普通科	併設型中高一貫教育校、 スーパーサイエンスハイスクール
七戸高等学校	全日制	4学級	総合学科	

### 百石高等学校

■課程・学科等：全日制・普通科、食物調理科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	74	68	64	206
女子	86	87	82	255
計	160	155	146	461

（平成26年度の募集定員 160人：普通科120人 食物調理科40人）

■学校の特色等

- ・「新しい時代を切り拓く、心豊かで、逞しい生徒の育成」などを教育目標に掲げて教育活動を実践しており、地元に住んで、地道に働き、地域社会に貢献する人材の育成を目指している。そのため、保育園・老人施設での実習、清掃活動、祭への参加などを通して地域住民との交流を深めている。
- ・普通科では、「基礎学力の養成」、「主体的な学びを引き出す確かな学力の育成」、「充実したキャリア教育（地元企業研究等）」を実践している。特に、学校で新聞を教材として活用するNIEの取組（学校設定科目『新聞を読もう』における実践活動等）については、県内外のNIE関係者及び関係校から非常に高い評価を得ている。
- ・食物調理科では、「卒業と同時に調理師免許が取得できる専門教育」、「普通教育と専門教育を通じた人間教育」、「地域から学び、地域に貢献する人材の育成（成人式の料理提供・特産品開発等）」を実践している。
- ・進路状況では、進学が約3割、就職が約7割で、年々県内志向が強まっている。食物調理科卒業生の約8割が調理をはじめとする食関係の進路に進んでいる。

#### 実習視察（食物調理科）



## 三本木高等学校・附属中学校

■課程・学科等：全日制・普通科【併設型中高一貫教育校】【スーパーサイエンスハイスクール】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

高等学校	1年	2年	3年	計
男子	95	120	101	316
女子	144	118	128	390
計	239	238	229	706

（平成26年度の募集定員 240人）

附属中学校	1年	2年	3年	計
男子	32	33	39	104
女子	48	46	41	135
計	80	79	80	239

（平成26年度の募集定員 80人）

### ■学校の特色等

- ・「真理と学問を尊重し、心身ともに健康で、国際社会の進展に寄与すべき、積極有為な人材を育成する」ことを教育目標に掲げて教育活動を展開している。県立では唯一の併設型中高一貫教育校であり、平成26年度で8年目となる。卒業生対象のアンケートでは肯定的な評価が多く、ほとんどの生徒が満足している様子がうかがえる。
- ・中高一貫教育の魅力として、6年間を一貫した効果的な生徒指導、学習指導（高校で学ぶ内容の先取り学習、中高教員による相互乗り入れ授業）、進路指導（中学生が高校の進路指導等の状況を間近に感じられる）があげられる。
- ・中学校段階での生徒一人一人の学力の伸長や、附属中学校出身生徒だけの狭い人間関係とならないような社会性の育成等に留意し、教育活動に取り組んでいる。
- ・高校1年生の時点で、生徒の約9割は国公立大学を目指しており、附属中学校出身の1期生、2期生は、難関大学や医学部医学科への合格者が多く、健闘している。

授業視察



学校概要等の説明



# 七戸高等学校

■課程・学科等：全日制・総合学科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	67	66	55	188
女子	93	80	91	264
計	160	146	146	452

（平成26年度の募集定員 160人）

■学校の特色等

- ・「心豊かな人間の育成」、「社会に貢献できる人間の育成」、「未来を創造する逞しい人間の育成」を教育目標として掲げて、教育活動を実践しており、地域に必要とされる学校をめざして町の秋祭りに全校生徒が踊り（トラジョサンバ）で参加するなど、積極的に地域に貢献している。
- ・1年次に学習する「産業社会と人間」では、企業体験や社会人講話など、職業・産業を理解させるキャリア教育を行っている。また、2・3年次の「総合的な学習の時間」では、グループでテーマを決めて研究を進め、3年次にその成果発表会を行っている。
- ・2年次から選択する5つの系列の中では、人文科学系列及び自然科学系列は進学希望の生徒が多い。また、就職希望の生徒の割合が比較的高い情報ビジネス、食品科学、福祉健康の各系列も、進学にも対応できるカリキュラムとなっている。また、福祉健康系列については、これまで介護福祉士国家試験受験資格取得に向けた取組が行われてきている。
- ・総合学科の学習は、「広く浅く」と言われてきたが、これからは「広く深く」にして、専門的分野をさらに深化させていかなければならないと考えている。

授業視察



農場視察



## (5) 下北地区学校視察

- 1 視察月日 平成26年11月14日(金)
- 2 参加委員 8人 検討会議委員(4人)、分科会専門委員(2人)  
地区部会委員(2人)
- 3 視察校

学校名	課程	1学年の学級数	学 科	多様な制度の導入等
田名部高等学校	全日制	5学級	普通科、英語科	校舎制導入校の本校
	定時制	1学級	普通科	
大湊高等学校 川内校舎	全日制	1学級	普通科	校舎制の導入校

### 田名部高等学校

- 課程・学科等：全日制・普通科、英語科 【校舎制導入校の本校】  
定時制・普通科

- 在籍生徒数等(平成26年5月1日現在) [単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	80	91	82	253
女子	114	104	117	335
計	194	195	199	588

(平成26年度の募集定員 200人：普通科160人 英語科40人)

定時制	1年	2年	3年	4年	計
男子	23	13	9	7	52
女子	11	14	7	8	40
計	34	27	16	15	92

(平成26年度の募集定員 40人)

■学校の特色等

- ・「全人的な人間教育」を教育目標に掲げ、下北地区の中核校として、地域に貢献することのできる人材を育成する学校づくりや自ら学ぶ意味を見つけ、自己を向上させる生徒の育成などを目指している。
- ・英語科は、グローバルな人材の育成を目標としており、特色ある活動としては、アメリカ語学研修(ポートエンジェルス市)や異文化理解学習(中国・韓国・インドネシア・ロシアの国際交流員等を講師とした学習)などを実施している。
- ・部活動では、平成26年度に県春季大会で剣道部男子が準優勝、県高等学校総合体育大会でフェンシング部女子が優勝、ボート部が男女総合優勝を果たした。
- ・9割以上が4年制大学への進学を目指して入学しており、平成25年度卒業生のうち4年制大学と短期大学を合わせた進学率は74.6%となっている。医学部医学科へは、平成19年度から6年連続で進学者が出ている。

授業視察



実習施設等視察  
(LL・情報処理室)



# 大湊高等学校川内校舎

■課程・学科等：全日制・普通科 【校舎制の導入校】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在） [単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	12	14	16	42
女子	28	21	21	70
計	40	35	37	112

（平成26年度の募集定員 40人）

## ■学校の特徴等

- ・「心『豊かに』、心身ともに健全で『逞しく』生き、国家・社会・郷土に貢献する人間を育成する」を教育目標に掲げて教育活動を実践している。また、これとは別に生徒が考えた学校スローガンを定めており、平成26年度は「飛躍～夢への限りなき前進～」としている。
- ・マンツーマン指導など、一人一人の生徒に丁寧な指導を行っており、高等学校で力を発揮できるようになった生徒が、英語のスピーチコンテスト全国大会に2度進出するなど、成果を上げている。
- ・県高等学校総合体育大会では、男子バレーボール部が平成24・25年度にベスト16、陸上部が平成24・26年度に女子砲丸投げで6位入賞し東北大会に進出するなど、少人数ながら成果を上げている。
- ・コース制を取り入れており、2年生から進学コースと就職コースに分かれている。さらに習熟度別授業、資格取得指導、個別添削指導により進路決定率は例年100%となっている。課題としては、就職後の定着率向上をめざして忍耐力を付ける指導をしていかなければならないと感じている。

## 授業視察



## (6) 三八地区学校視察

- 1 視察月日 平成26年11月27日(木)
- 2 参加委員 10人 検討会議委員(6人)、分科会専門委員(2人)  
地区部会委員(2人)

### 3 視察校

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
八戸水産 高等学校	全日制	4学級 (20人)	海洋生産科、水産食品科、水産工 学科、情報通信科 専攻科(漁業科、機関科)	寄宿舎の設置
八戸商業 高等学校	全日制	4学級	商業科、国際経済科、情報処理科	
田子高等学校	全日制	2学級	普通科	連携型中高一貫教育校

## 八戸水産高等学校

- 課程・学科等：全日制・海洋生産科、水産食品科、水産工学科、情報通信科  
専攻科・漁業科、機関科  
【寄宿舎の設置校】

- 在籍生徒数等(平成26年5月1日現在) [単位：人]

全日制	1年	2年	3年	計
男子	87	96	91	274
女子	54	42	41	137
計	141	138	132	411

(平成26年度の募集定員 140人：各学科35人)

専攻科	1年	2年	計
男子	9	12	21
女子	0	0	0
計	9	12	21

(平成26年度の募集定員 20人：各学科10人)

### ■学校の特色等

- ・県内唯一の水産高校であり、「有為な社会人、明るくたくましい水産人の育成」を教育目標に掲げ、地域とともに、日本の水産業を担う人材の輩出に努めている。
- ・海洋生産科は、船舶・漁業について学習しており、2年生から海洋漁業コースと栽培漁業コースに分かれる。また、水産食品科は魚介類の食品製造・管理・流通について、水産工学科は船舶のエンジン・発電機・冷凍機等の機関について、情報通信科は海洋エレクトロニクスについて、それぞれ学習している。
- ・実習船青森丸で、1年生は2泊3日の体験航海を行い、海洋生産科、水産工学科の2年生は約70日間の国際航海を行っている。
- ・専攻科は船長や機関長の育成を目指して3級海技士等の資格取得に取り組んでおり、修了後には全員が船舶、漁業に関する仕事に就職している。

### 実習施設等視察

(食品製造実習室)



(飼育室)



# 八戸商業高等学校

■課程・学科等：全日制・商業科、国際経済科、情報処理科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	39	35	34	108
女子	121	123	125	369
計	160	158	159	477

（平成26年度の募集定員 160人：商業科80人 他の学科各40人）

■学校の特色等

- ・「国際化・情報化時代に対応しうる創造力豊かで、知・徳・体の調和のとれた人間の育成」及び「社会の有為な形成者として必要な知識・技能を習得させ、心身ともに健康な人間としての資質を養成する」を教育目標に掲げて、有能な産業人の育成を目指し、普通教科及び専門教科の学習の深化を図るとともに、各種資格取得に力を注いでいる。
- ・県内で本校にのみ設置されている国際経済科では、グローバル化に対応すべく、海外に目を向けた貿易に関する学習を行っており、語学力の向上にも力を入れている。また、生徒自ら海外からの物品の仕入等の実習等を行っている。
- ・就職希望者の7割が地元就職しており、地元への貢献度、定着度が高く、地域を支える人材育成の一翼を担っている。地元中学生の本校への志望状況は非常に高い。
- ・例年、進学と就職の割合は5：5となっている。最近では、税理士、教員、システムエンジニアを目指す生徒が増えてきており、それに伴い上級学校への進学も増えてきている。

実習施設等視察  
(総合実践室)



授業視察  
(情報処理実習室)



## 田子高等学校

■課程・学科等：全日制・普通科 【連携型中高一貫教育校】

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	22	16	33	71
女子	21	15	22	58
計	43	31	55	129

（平成26年度の募集定員 70人）

■学校の特色等

- ・「知・徳・体の調和のとれた健全な人格の形成を目指すとともに、郷土を愛し未来を切り拓く創造力に富んだ人材の育成に努める」を教育目標とし、自らの夢を掲げ、強い意志をもって主体的に学習する生徒の育成などを目指している。
- ・特色ある教育活動として、中学校との相互乗り入れ授業（数学、英語、体育）や国際教養コース、生活情報コースの2コース4系に分かれた習熟度別少人数指導、田子町の姉妹都市であるギルロイ市（カリフォルニア州）での語学研修などを実施している。
- ・全校生徒の約半数が所属している郷土芸能部は、月に1回から2回のペースで老人ホームや各種祭りなどにおいて田子神楽や流し踊りを披露している。
- ・田子町から、郷土芸能部の全国遠征費や生徒の県外での予備校講習費等として経済的支援がある。

### 授業視察



### 3 県外学校視察について

1 視察月日 平成26年11月11日(火)、11月12日(水)

2 参加委員 3人

第1分科会委員・下北地区部会長 相馬 俊二  
第1分科会委員・三八地区部会長 斗沢 一雄  
第2分科会委員・上北地区部会長 長谷川光治

3 視察校

学校名	課程	1学年の 学級数	学 科	多様な制度の導入等
宮崎県立宮崎西高等学校 ・附属中学校	全日制	10学級	普通科(7)、理数科(3)	併設型中高一貫教育校
宮崎県立日南振徳高等学校	全日制	6学級	地域農業科、機械科、電気科、 商業科、経営情報科、福祉科	総合制専門高校

# 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校【併設型中高一貫教育校】

■課程・学科等：全日制・普通科、理数科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

高等学校（普通科）	1年	2年	3年	計
男子	154	142	149	445
女子	133	138	130	401
計	287	280	279	846

（平成26年度の募集定員 280人）

高等学校（理数科）	1年	2年	3年	計
男子	78	71	72	221
女子	42	52	47	141
計	120	123	119	362

（平成26年度の募集定員 120人）

附属中学校	1年	2年	3年	計
男子	37	48	33	118
女子	43	32	46	121
計	80	80	79	239

（平成26年度の募集定員 80人）

■学校の特色等

- ・ 様々な分野で活躍するトップリーダーを育てるため、平成19年度に附属中学校を開校し、中高一貫教育により進学に重点を置いた教育活動を展開している。
- ・ 高等学校の志願倍率は、普通科よりも理数科が高い傾向にある。（平成26年度入試では理数科の倍率は普通科の約2倍）
- ・ 附属中学校の志願倍率は開校当初7倍を超えていたが、現在は約4倍前後である。
- ・ 附属中学校、高等学校ともに、校外での体験学習や研修のプログラムを組み、探究心や豊かな感性を育む教育活動を行っている。
- ・ 文化祭や体育祭などの学校行事においては、中学生と高校生が仲良く協力して取り組み、お互いに良い刺激を受けながら活発に活動している。
- ・ 県内一の進学実績を誇り、難関大学・学部（学科）に多数の合格者を出している。

■視察内容

（1）併設型中高一貫教育に関する主な成果・課題

- ・ 中学校と高等学校の教員の相互乗り入れ授業及び中学校における先取り学習による学力向上等
  - 中学校と高等学校とで教員が相互に乗り入れ授業を行っており、6年間を通じた学力向上と同時に、教員の指導力向上にも繋がっている。
  - 附属中学校では、数学、理科、英語について、3年生で高等学校レベルの学習まで発展させている。
- ・ 異年齢交流による生徒の育成
  - 学年を越えた縦のつながりを重視しており、理数科が実施したアンケートでは、94%の生徒が「友人関係に満足している」と答えている。人間関係の固定化による問題は生じていない。
- ・ 教育の充実
  - 中高6年間を見通した教育のさらなる充実に努める必要がある。

(2) その他の特色ある取組

- ・理数科を特進クラスとして位置づけた体制づくり
  - 附属中学校からの入学生（中入生）80人は全て理数科クラスに所属し、高等学校からの入学生（高入生）40人と合わせて、理数科は3クラス120人の体制となっている。
  - 理数科は文系と理系に分かれ、いわゆる特進クラスとしての位置付けとなっている。
- ・普通科への理文クラスの設置
  - 理文クラスは、理数科と同じ教材・進度の授業、理数科講演会の参加など、理数科に近いレベルの学習をするために設けられている。これにより、学校全体として学力の底上げを図る狙いがある。

校舎



授業視察



# 宮崎県立日南振徳高等学校【総合制専門高校】

■課程・学科等：全日制・地域農業科、機械科、電気科、商業科、経営情報科、福祉科

■在籍生徒数等（平成26年5月1日現在）

[単位：人]

	1年	2年	3年	計
男子	119	146	122	387
女子	104	87	90	281
計	223	233	212	668

（平成26年度の募集定員 240人：各学科40人）

## ■学校の特色等

- ・ 少子化による生徒数減の対策として、平成21年度に日南農林高等学校、日南工業高等学校、日南振徳商業高等学校の3校を統合して開校した。
- ・ 学校規模の大きさを生かすことにより、生徒同士が切磋琢磨できる環境となっており、活気あふれる学校行事や、たくさんの部活動は学校の魅力の一つとなっている。
- ・ 校舎は新築が数棟あったが、多くは旧日南工業高等学校を増改築して使用しており、各学科の実習室のほか農場が整備されている。
- ・ スクールバスが3台運行されており、100人を超える生徒が利用している。最も遠い乗り場からの所要時間は約1時間である。（バス料金については、自治体等からの補助はなく、生徒の自己負担。）
- ・ 進学と就職の割合は、3：7となっている。

## ■視察内容

（1）異なる学科の高等学校を統合したことによる成果・課題

- ・ 学習環境の整備が進んだ  
→ 各学科とも実習施設などが整備され、しっかりと学習に取り組める環境が整っている。
- ・ 他学科と連携した課題研究が可能となった  
→ 他の学科と連携した課題研究が活発に行われるなど、総合制専門高校の良さが出ている。  
〔例〕農業科、工業科、商業科共同のノンオイルドレッシングの製造・販売
- ・ 規模拡大により学校に活気が生まれた  
→ 校舎・敷地が広く、生徒も多いため、学校に活気が感じられる。
- ・ 開校当初は、各学科間の共通理解を図ることが難しかった。  
→ 現在では共通理解が図られ、教員間、学科間の連携はうまくいっている。

（2）総合選択制導入の成果・課題

- ・ 他学科の専門科目を学ぶことで興味・関心が広がり、他学科の資格取得を目指して課外講習にも参加し、実際に合格した生徒も多くいる。（第2種電気工事士、簿記検定、危険物取扱者等）
- ・ さらに教育効果を高めるため、他学科の生徒が履修できる教科・科目を随時見直していく必要がある。

- (3) 福祉科（青森県の県立高等学校では未設置の学科）の取組の成果・課題
- ・ 介護福祉士国家試験受験資格を取得させるため週2日7時間授業を行い、さらに夏季・冬季休業中には補充授業も行っている。介護福祉士国家試験の合格率は全国平均を大きく上回っており、ここ2年間は90%を超えている。
  - ・ 他の学科と比べて学業がハードということもあり、近年、福祉科を志願する生徒が減少している。

授業視察



実習施設等視察  
(農業実習用ハウス)

